第25回ノムラカップ
アジア太平洋アマチュアゴルフチーム選手権について

◆本年度　本選手権 実施概要

開　催　期　間　：　平成23年８月16日（火）～19日（金）
開　　催　　地　：　Denarau GC（フィジー）
主　　催　：　アジア太平洋ゴルフ連盟（ＡＰＧＣ）
競　技　方　法　：　１日１８ホール、４日間７２ホールのストロークプレー。各日とも各チーム４人中３人の合計スコアをその日のチームスコアとし、４日間のチームスコア合計で優勝を争う。
参加国及び地域（予定）　：　21の国と地域
オーストラリア、バングラディシュ、中国、台湾、フィジー、グァム、香港、インド、インドネシア、イラン、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、シンガポール、タイ、アラブ
日本代表選手団　：　第96回日本アマチュアゴルフ選手権競技終了後、決定

◆ノムラカップとは

※アジア太平洋ゴルフ連盟（APGC）が主催する、現在アジア太平洋地区で開催される公式戦の中では最も規模の大きいアマチュアチーム選手権で、同地区のゴルフ界の発展に寄与することを目的に隔年で開催されています。
本選手権の発足は、1962年に川奈GCで行われた世界アマチュアゴルフチーム選手権の際にフィリピンのマニュエル ディンド ゴンザレス氏から日本・台湾・フィリピンの３カ国の間で対抗戦を行うのはどうかとの提案があったのにさかのぼります。
その提案を受けた当時のJGA副会長野村駿吉氏と台湾の代表者と協議した結果、1963年にフィリピンで日本、台湾、フィリピンが参加して第１回アジアアマチュアゴルフチーム選手権を開催した。「ノムラカップ」の由来は、野村駿吉氏が果たしたアジアアマチュアゴルフ界への貢献の偉業を称えてつけられたもので、第１回大会は日本が優勝を果たしています。1977年には、オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニアがＡＰＧＣに加盟したことを受け、競技名称を現在の「アジア太平洋アマチュアゴルフチーム選手権」に変更し、現在に至っています。なお、日本は過去８度の優勝を数えています。

※APGC：アジア太平洋ゴルフ連盟

1962年に川奈GCで行われた世界アマチュアゴルフチーム選手権の際に、フィリピンのマニュエル ディンド ゴンザレス氏から日本・台湾・フィリピンの3カ国の間で対抗戦の提案を受け、当時のJGA副会長野村駿吉氏と台湾の代表者と協議した結果、翌1963年にフィリピンで日本、台湾、フィリピンによる第1回アジアアマチュアゴルフチーム選手権を開催した。それを機にアジア太平洋地区のゴルフの普及と発展を目的とし、統括機関としてAPGCが発足。

【ＡＰＧＣ加盟国一覧】

Australia	Bahrain	Bangladesh	Bhutan
China	Guam	Hong Kong	India
Indonesia	Republic of Iran	Japan	Korea
Macau	Mongol	Malaysia	Myanmar
Nepal	New Zealand	Pakistan	Papua New Guinea
Philippines	Qatar	Chinese Taipei	Samoa
Singapore	Sri Lanka	Thailand	U.A.E
Myanmar	Laos	Cambodia	Vietnam
Kazakhstan	Cook Islands		

（2010 年 5 月現在）

◆野村駿吉氏の紹介

明治 22（1889）年生まれ。父親の竜太郎氏は、日本の鉄道事業における先駆者といわれた人物。駿吉氏は、明治 44（1911）年に神戸商高を卒業後、大正 2（1913）年に三井物産ニューヨーク支店に勤務。このころ、ゴルフを覚え、大正 11（1922）年からはテキサス州で石油採掘に従事し、翌年に日本に帰国。帰国後は東京ゴルフ倶楽部の会員となり研鑽を積み、昭和 2（1927）年に日本アマチュアゴルフ選手権競技に優勝した。昭和 10（1935）年には、関東ゴルフ連盟の設立を果たし、関東アマを創設するなど、戦前の日本のゴルフ発展に寄与した。戦後は、昭和 23（1948）年に東京ゴルフ倶楽部理事長に就任すると、翌年には関東ゴルフ連盟を再建、ＪＧＡの復活にも尽力した。昭和 32（1957）年には霞ヶ関カンツリー倶楽部でのカナダカップ開催にも尽力し、日本のゴルフブームの礎を築いた。昭和 38（1963）年、73 歳で死去。

◆開催コースの紹介

フィジーで最も新しく、同国を代表するチャンピオンシップコースとして知られる Denarau GC は、日本人の本橋栄一氏が設計を担当しました。フェアウェイも広く、全体的にフラットなコースですが、川や池が巧みに配されており、15 ホールでハザードが絡む戦略性に富んだレイアウトとなっています。また、動物のデザインを施されたバンカーが点在するなど、南国ムード溢れるコースです。

ノムラカップ アジア太平洋アマチュアチーム選手権競技 記録一覧表

主催者（国）	回	開催年度	参加国	優　勝　国	日本ﾁｰﾑ成績	参加選手及び個人順位
フィリピン	第1回	1963年	3ヶ国	日　本	優勝	広瀬　義兼（３位）石本　喜義（４位） 鍋島　直要（８位）富田　浩安（９位）
日　本	第2回	1965年	5ヶ国	日　本	優勝	広瀬　義兼（６位）三上　正彦（７位） 中部　銀次郎（１位）寺本　昭洋（３位）
台　湾	第3回	1967年	8ヶ国	台　湾	2位	前田　正一郎（15位）森　道　応（９位） 中部　銀次郎（６位）島崎　正彦（14位）
韓　国	第4回	1969年	7ヶ国	台　湾	2位	中部　銀次郎（２位）入　江　勉（４位） 山田　健一（10位）森河　伸治（16位）
フィリピン	第5回	1971年	7ヶ国	日　本	優勝	入　江　勉　高野　善次郎 高橋　信雄　森　道　応
インドネシア	第6回	1973年	9ヶ国	イ　ン　ド	2位	入　江　勉　森　道　応 中部　銀次郎　阪田　哲男
日　本	第7回	1975年	9ヶ国	日　本	優勝	中部　銀次郎　阪田　哲男 森　道　応　倉本　昌彦
マレーシア	第8回	1977年	10ヶ国	台　湾	4位	阪田　哲男　倉本　昌彦 内藤　正幸　羽　川　豊
シンガポール	第9回	1979年	13ヶ国	日　本	優勝	中部　銀次郎（３位）羽　川　豊（１位） 湯原　信光（３位）内藤　正幸（６位）
イ　ン　ド	第10回	1981年	10ヶ国	日　本	優勝	阪田　哲男（１位）加藤　一彦（５位） 金谷　多一郎（６位）内藤　正幸（８位）
韓　国	第11回	1983年	12ヶ国	台　湾	4位	阪田　哲男（６位）内藤　正幸（15位） 尾家　清孝（10位）加藤　一彦（16位）
オーストラリア	第12回	1985年	13ヶ国	オーストラリア	3位	加藤　一彦　尾家　清孝 内藤　正幸　中島　和也
タ　イ	第13回	1987年	13ヶ国	日　本 play off	優勝	阪田　哲男（１位）中川　隆弘（８位） 大友　富雄（18位）米倉　和良（33位）
台　湾	第14回	1989年	10ヶ国	日　本	優勝	尾家　清孝（2位T）川岸　良兼（10位） 阪田　哲男（2位T）丸山　茂樹（６位）
マ　ニ　ラ	第15回	1991年	13ヶ国	オーストラリア	3位	阪田　哲男（5位T）尾家　清孝（33位） 木村　憲明（23位T）中川　隆弘（16位T）
マレーシア	第16回	1993年	13ヶ国	オーストラリア	2位	宮本　勝昌（16位T）米倉　和良（１位） 片山　晋呉（8位T）横田　信一（16位T）
ニュージーランド	第17回	1995年	13ヶ国	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	5位	中川　隆弘　高橋　竜彦 星野　英正　野田　賢正
香　港	第18回	1997年	14ヶ国	台　湾	5位	中川　隆弘　和　田　博 星野　英正　宮里　優作
パキスタン	第19回	1999年	14ヶ国	オーストラリア	8位	谷原　秀人（14位T）宮里　優作（24位T） 矢野　東（33位T）渡邉　征伸（18位T）
中　国	第20回	2001年	12カ国	オーストラリア	3位	藤島　晴雄（２位T）藤　田　大（15位） 和　田　博（13位T）井関　剛義（28位）
オーストラリア	第21回	2003年	15カ国	オーストラリア	3位T	藤島　晴雄（２位）甲斐慎太郎（15位T） 石川　裕貴（24位T）井関　剛義（24位T）
日　本	第22回	2005年	16カ国	オーストラリア	7位	池田　勇太（26位）額賀　辰徳（39位T） 岩井　亮磨（29位T）伊藤　勇気（9位T）
台　湾	第23回	2007年	18カ国	オーストラリア	2位	田村　尚之（6位T）伊藤　勇気（9位T） 宇佐美祐樹（12位）薗田　峻輔（20位T）
韓　国	第24回	2009年	21カ国	韓　国	3位	宇佐美祐樹（23位T）大田和桂介（11位） 川村　昌弘（8位T）小　平　智（12位T）